

校種(学級の種別)	小学校 (知的障がい特別支援学級)	本事例の教科等名	自立活動
在籍児童生徒の実態	<p>A 児 (3 年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できないことや間違いがあるとイライラして不機嫌になる。</li> </ul> <p>B 児 (4 年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できないことや間違いがあるとイライラして不機嫌になる。</li> </ul> <p>C 児 (5 年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の言動で納得できないと何度も指摘する。</li> </ul>	<p>目標・指導内容</p>	<p>「アンガーコントロールフラッシュカード」を使って、大小さまざまな感情を表現する語彙とマイナス感情をプラスに変える言葉を身につけさせたり、「いかりのおんどけい」を使って怒りの大きさの違いを認知させたりして、怒りのコントロールの段階やおさえ方などを考えさせ、日常生活に生かせるようにする。</p>
指導の経過・工夫点・子どもの変容	   	<ol style="list-style-type: none"> <li>①『アンガーコントロールフラッシュカード』を使って、マイナスの気持ちを教師の後にリピートさせ、児童に怒りの感情に対する言葉を身につけるようにさせる。</li> <li>②「いかりのおんどけい」を使って、「出来事の軽重によって、怒りの大きさと表現が異なる」ことを体感させる。</li> <li>③自分の怒りの感情を落ち着かせる方法を話し合う。それを記録したメモをアンガーログファイルの「きみがおちつきをとりもどせるのはこれだよ!」の箇所に貼り付けて保存させる。</li> <li>④「アンガーコントロールフラッシュカード」の両面を使って、表面のマイナスの気持ちを裏面のプラスの認知に変換できる学習をする。 児童が怒りの場面に遭遇した際に、そのときはどんなマイナスの気持ちだったかとその気持ちを言い換えるプラスの言葉は何だったかを確認するようにする。できたときは、褒める。</li> <li>⑤児童が遭遇した怒りの状況と結果を付箋紙等のメモに記入させ、その怒りがアンガーログファイルの中のどの怒りの度合いにあたるのかを考えさせて保存させる。プラスに言い換える「ポジティブ・チェンジ」の確認もする。</li> </ol>	
成果と課題・今後の方向			<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のはっきりしない不快な感情をカードで示すことで、言葉に変換し、分析できるようになってきた。なかなか自分の感情を説明できない児童や話したがらない児童も少しずつ話せるようになってきた。</li> <li>○話し合いのあと「いかりのおんどけい」を指し示し、気持ちが落ち着いたことを確認できるようになった。</li> <li>○マイナス感情が起きた出来事やポジティブ・チェンジの言葉をメモして保管しておくことで、児童が自分たちの感情を分析したり切り替えたりする意識ができてきている。</li> <li>○以前はすぐに「おこった」「いらいら」のカードを選んでいたら「ざんねん」のカードを選ぶことができるようになった。</li> <li>●児童がある出来事に対して過度な怒りを表すカードを選んだとき、指導者は子どもの怒りに共感しつつもその場面に望ましいレベルのカードを説明するが、なかなか受け入れられない。</li> </ul>

